

# 「そうぞう」力を働かせ、表現を工夫して思いを伝える力を育む 「書く」学習

—シンキングツールを活用した対話的な学びの充実を通して—

馬原 大介（熊本市立桜木小学校）

概要：本実践は、国語科の「書く」学習を通して、児童の表現力の向上を目指した研究である。対話的な学びを通して、児童が自らの見方・考え方・述べ方を再構築する、「言葉による見方・考え方」を広げ、深める授業づくりに取り組んできた。「学びの見通し」や「振り返り」の工夫、「シンキングツールを活用した対話的な学び」を積み重ねてきたことで、本研究が児童の学習意欲を向上させ、学び合いを生み出し、一人一人の「学びの自覚」につながる事が明らかになった。

キーワード：「言葉による見方・考え方」、「広げ、深める」、「シンキングツール」、「対話的な学び」

## 1 はじめに

今日の児童が社会で活躍する頃には、社会の在り方そのものが現在とは「非連続」と言えるほど劇的に変わるとされている。

このような時代にあって学校教育には、児童一人一人が「持続可能な社会の創り手」となることができるよう、その資質・能力を育成することが求められている。

国語科では「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」の育成を目指しており、そのためには「言葉による見方・考え方」を働かせることが必要とされている。

目指すべきは、小学校段階における国語科の学びを、将来に波及するような汎用性のある学びにしていくこと、さらに児童自身が活用への意識を高めていくことである。すべての児童が「言葉による見方・考え方」を働かせながら学ぶことができる授業改善を目指す。

## 2 児童の実態

これまで児童は、心が動いたときのことについて、思い出しながら詩を書く学習をしている。しかし、伝えたいことがより伝わるように、オノマトペを用いたり、他のものに例えたりして表現を工夫する力は身につけていない。本実践

では児童一人一人が自らの思いを伝えるため、表現を工夫しながら詩を書く活動を行う。その中で、児童が表現を工夫したくなるような手立てを提案したい。また、詩にはそれぞれの見方・考え方が表れる。表現を工夫しながら詩をつくり、さらにつくった詩を交流することにより、楽しみながらさまざまな作品に触れ、児童一人一人の「言葉による見方・考え方」を広げていくことをねらいたい。

## 3 研究について

### (1) 研究主題

『「そうぞう」力を働かせ』とは、自らの体験を具体的に想像し、言葉を創造することであり、『表現を工夫して思いを伝える力』とは、言葉を取捨選択したり、順序を考えたりして表現を工夫することで、思いをよりはっきりと伝える力である。

### (2) 研究の仮説

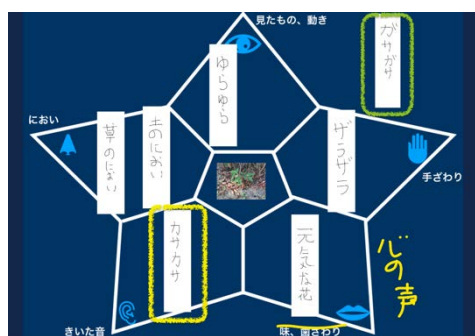
#### 仮説1

「言葉による見方・考え方」を広げ、深めていく授業を展開すれば、児童が自らのそうぞう力を働かせ、表現を工夫する力が育成されるであろう。



有できるようにした。

また、詩で使う言葉集めでは、スターカード(資料2)を使って体験を五感で捉え直しながら言葉を集めた。



【資料2 スターカード】

ここで、言葉のもつイメージと伝えたい思いとのつながりを考える「言葉の吟味」に重点をおいた。言葉に対して実感を伴った理解を促すためには、体験を通じた具体的なイメージと言葉を結びつけることが必要だと考えた。そこで、「どんなときにこんな言葉を使うかな。」と児童に問いかけることで、言葉から想像される体験を想起させた。さらに、その言葉にあわせて動作化も取り入れた(資料3)。

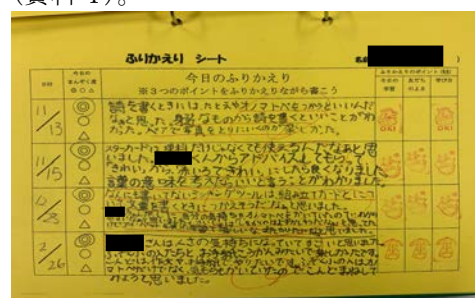


【資料3 動作化による言葉の吟味】

### (3) 深い学びを生み出すための振り返りの工夫

毎時間の振り返りにおいて、児童が自分の学びを本時の学習の成果と学び方の両面から振り返ることができるよう、振り返りの視点を明らかにした、振り返りシートを準備した。シートに毎時間の振り返りを残していくことで、前時の振り返りと本時の振り返りを読み比べたり、コメントから振

りやり方を見直したりできるようにした(資料4)。



【資料4 振り返りカード】

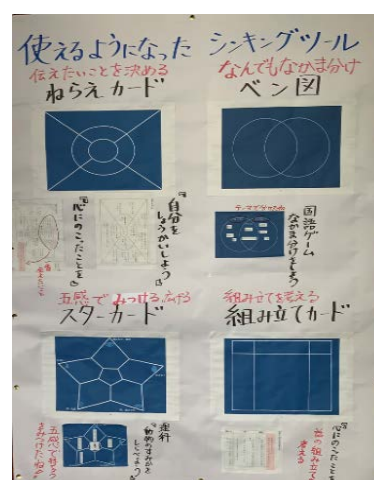
また、毎時間の授業のはじめと終わりに振り返りを発表する時間を設けることで、児童が学びの連続性を意識し、学習に展望がもてるようにした。

さらに、単元の最後に単元全体の振り返りを行い、本単元でどのような力が身に付いたのか、それを今後何に生かせるかといった視点で考えさせた。

### (4) 情報活用能力を育成するための工夫

物事や出来事等を言語化する際、それをどのように捉えていいかわからず、なかなか書き出せない場合がある。そこで、物事を捉えるさまざまな切り口を単純化・可視化する手立てとしてシンキングツールを活用している。

本クラスでは、1年間を通して4つのシンキングツールを活用してきた。活用したツールは、その活用方法を確認して、常時掲示した(資料5)。



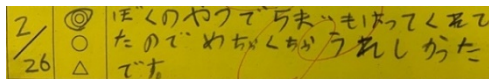
【資料5 シンキングツール】

本単元では、作文や自己紹介のときに使った伝えたいことを決める「ねらえカード」と、理科で使った物事を五感で捉える「スターカード」を活用した。ねらえカードで題材を決め、決めた題材をもとに詩に使用したい言葉をスターカードで集めた。児童は、シンキングツールの活用方法が分かっていたため、学び方を理解しており、主体的に詩づくりに取り組むことができた。学習課題の解決を目指していった。具体的には、詩の題材で決めた日常の発見・感動したときの気持ちを想像し、キーワードを見つけ、詩を書く活動を行った。

## 6 研究の成果と課題

### (1) 視点1について

○相手意識・目的意識を明確にするために学習課題を設定したことで、児童は単元の最後まで高い意欲をもって学習に取り組むことができた(資料6)。



【資料6 授業後の振り返り】

### (2) 視点2について

○シンキングツール(スターカード)の活用により、児童が五感という思考の切り口を得ることができたため、伝えたい思いや様子を、複数の視点から言葉で表現することができた。

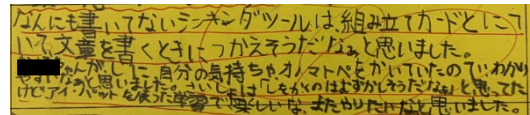
○題材を集める際、グループで活動したことで、感動体験の共有ができたため、事後の対話がスムーズに行われた。

●言葉を吟味する際、児童が感動・発見した点は個人の感覚にゆだねられるため、五感で捉えなおすことが難しかった。

●シンキングツールに言葉を書き込むことが目的化しそうになる場面があったので、ツールの活用方法と目的については丁寧におさえる必要があると感じた。

### (3) 視点3について

○振り返りの視点を示したことで、学習内容だけでなく学び方についても振り返る機会が増え、次時の学習や今後の学習との関連を意識した振り返りがみられるようになった(資料7)。



【資料7 学び方の振り返り】

### (4) 視点4について

○シンキングツールを年間を通して活用してきたことで、ツールが児童にとって「使わなければならないもの」でなく、「自分の思考を整理するために使いたいもの」になっていた。

●シンキングツールを活用する際、理科では動画を活用したが、国語科においては想像する力を高めるために写真を活用した。教科や伸ばす力によって、ICTの活用の仕方も変えることが必要だと感じた。

## 参考文献

- 1) 中教審答申の作成に向けた骨子(案) 文科省(令和2年8月)
- 2) 「小学校学習指導要領」 文部科学省(平成29年3月)
- 3) 「資質・能力 理論編」 国立教育政策研究所(平成28年1月)
- 4) 授業を磨く  
田村 学 著 東洋館出版社(2015)
- 5) 詩の教材研究—「創作のレトリック」を生かす—  
児玉 忠 著 教育出版(2017)
- 6) 小学校国語科学び合いの授業で使える!「思考の可視化ツール」  
細川太輔 北川雅浩 編著 明治図書(2018)
- 7) 「見方・考え方」を鍛える小学校国語科の「思考スキル」  
伊崎一夫 編著 東洋館出版社(2018)